



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2013年5月号（502号）》

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 報 告 | |
| ・ 常任司教委員会 | 1 |
| ・ 典礼委員会 | 2 |
| ・ エキュメニズム部門 | 3 |
| ・ 難民移住移動者委員会 | 4 |
| ・ カリタスジャパン | 6 |
| ・ 正義と平和協議会 | 7 |
| ・ 部落差別人権委員会 | 9 |
| ・ 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会 .. | 11 |
| ・ 中央協議会事務局（総務） | 12 |
| 公文書 | 12 |

常任司教委員会

■3月定例常任司教委員会

日 時 2013年3月7日（木）10：00－12：00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 委 員 7人

事務局 8人

報 告

中央協議会口座の義援金残高について

2月28日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は73,350,693円、支出合計は、29,409,812円、残高は43,940,881円となった。

審 議

1. 新教皇選出にあたっての司教協議会としての対応事項について

新教皇選出に伴う対応として、常任司教委員会で確認した事項に基づき、以下の準備を行う。

- ①新教皇就任にあたっての祝電
- ②新教皇選出に伴う司教協議会会長メッセージ（一般配布用、信者あて配布用）
- ③本常任司教委員会に提出された「新教皇が選出されたときのミサ」の各教区への配布と中央協議会ウェブサイトへの掲載。

2. 教皇庁・家庭評議会からの依頼について

教皇庁・家庭評議会から依頼を受けた、2013年6月26日－28日にローマで開催するカトリック信徒の法律家を対象とした国際勉強会への推薦については、テーマである「家庭の権利に関する憲章」や「カトリック教会の社会教説」の内容にのっとり発言できる人材を選出し、対応する。

3. 2013年度「司教の集い」のテーマについて

2013年6月の定例司教総会中に開催する「司教の集い」のテーマを「新しい福音宣教」とし、各教区での福音宣教に対するあり方や悩み、今後の展望などについて司教方の率直な意見交換を行う場とする。なお発題者、コメンテーターなどについては、4月常任司教委員会で検討する。

4. 中央協議会発行出版物の企画承認について

出版審議会から提出された以下の書籍を中央協議会から発行することと、出版企画書を承認した。

- ①書籍名 日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ
編著者 「日本二十六聖人長崎への道」ネットワーク
- ②書籍名 『預けられたいのちを大切に「宗教者の使命－自死をめぐって－」2012シンポジウム記録』
著 者 日本カトリック司教協議会 諸宗教部門
- ③書籍名 聖職者による子どもへの性虐待に対応するためのマニュアル
著 者 子どもと女性の権利擁護のためのデスク

典礼委員会

■定例会議

日 時 2013年3月11日（月）13：30－17：00
場 所 カトリック横浜司教館（神奈川・横浜市）
出席者 8人
欠席者 3人

審 議

1. 『典礼憲章』発布50周年記念講演会

『典礼憲章』発布50周年を迎え、2013年11月9日（土）にカトリック麴町教会（東京教区）を会場に記念講演会を開催する。スケジュール、担当、講話内容について具体的に検討した。

2. 2013年度全国典礼担当者会議

2013年9月9日（月）－11日（水）に開催する掲記会議の取り扱い内容について検討した。『典礼憲章』

発布 50 周年にあたる本年は、昨年度のテーマを引き継ぎ、第二バチカン公会議後に日本の教会で行われてきた典礼刷新の歩みを振り返り、教皇庁から発行された指針等の整理を行う。また、共同回心式・成人のキリスト教入信式のプロセス・集会祭儀などに関する各教区の現状をふまえたディスカッションに多くの時間を割く予定。

3. 「司祭不在のときの主日の集会祭儀」儀式書

これまで各教区に対応をゆだねてきたが、規範版に基づく、全国標準となる儀式書を当委員会で作成するために準備を行うことを確認した。

4. 修道会・宣教会固有の典礼式文

2012 年度定例司教総会の決議に基づき、修道会・宣教会等の固有の典礼式文の日本語訳を本委員会で校閲することになった。その校閲方法について検討を行った。

次回定例会議 2013 年 5 月 20 日（月）10:00-15:30 日本カトリック会館

エキュメニズム部門

■第 88 回聖公会／ローマ・カトリック合同委員会

日 時 2013 年 3 月 14 日（木）14:00-16:00

場 所 日本聖公会管区事務所（東京・新宿区）

出席者 カトリック 8 人

聖公会 7 人

欠席者 カトリック 3 人

聖公会 1 人

報 告

最近の聖公会・カトリック教会の動向についての情報交換

1. カトリック教会

①教皇辞任と新教皇の選出

②2012 年度臨時司教総会

③『世界代表司教会議第 13 回通常総会報告』刊行

④『第二バチカン公会議公文書改訂公式訳』刊行予定

2. 聖公会

①カンタベリー大主教ローワン・ウィリアムズ師の退任と後任のジャスティン・ウェルビー師の任命。

②主教人事

③「日本聖公会東日本大震災被災者支援 いっしょに歩こう！プロジェクト」

④世界聖公会中央協議会（ACC）の開催（2012 年 10 月 28 日-12 月 7 日、ニュージーランド・オークランド）。日本からは三鍋 裕・横浜教区主教が参加。

審 議

1. ARCIC（聖公会-ローマ・カトリック教会国際委員会）合意声明 *Life in Christ: Morals, Communion and the Church*（1994 年）の翻訳を検討。次回会議で最終確認を行う。

2. 第二バチカン公会議『エキュメニズムに関する教令』公布 50 周年（2014 年 11 月 21 日）に向けての企画について話し合い。

次回会議 2013年10月1日(火) 14:00-16:00 日本聖公会管区事務所(東京・新宿区)

■第67回ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会

日時 2013年3月14日(木) 17:00-19:00
場所 ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)
出席者 カトリック 8人
 ルーテル 7人
欠席者 カトリック 3人
 ルーテル 2人

報告

両教会の動向についての情報交換

1. ルーテル教会

- ①カトリック・ルーテル国際対話委員会開催予定
- ②宗教改革500周年(2017年)に向けた日本福音ルーテル教会の取り組みについて

2. カトリック教会

- ①新教皇の選出
- ②2012年度臨時司教総会

審議

ルーテル・カトリック教会間対話を踏まえた新しい出版物刊行企画について話し合い、準備小委員会の方針を承認した。

次回会議 2013年10月1日(火) 17:30-19:30 岐部ホール(東京・千代田区)

難民移住移動者委員会

■2012年度第7回事務局会議

日時 2013年2月26日(火) 10:30-12:00
場所 日本カトリック会館 会議室5
出席者 5人

報告

1. FAX NEWS 瓦版クリスマス号発送について

12月6日、約2,000部を全国の教区事務所、小教区、修道院、関係団体などに送付した。

2. 2013年度「全国研修会」の進ちょく状況について

10月16日(水)-18日(金)、仙台教区内で開催の見込み。詳細については未定。

3. 2012年度「長崎教会管区セミナー」について

11月19日(月)-20日(火)、大阪で開催された「全国担当者会議」において、「2012年度長崎教会管区セミナー」を開催しない方向にいったん決定したが、急きょ提案がなされ、2013年3月10日(日)14時-15時30分、カトリック大名町教会(福岡教区)で開催する運びに変更となった。テーマは、「希望を決して失わないパガサ・イワテ～震災から2年、復興の3年目～」で、東日本大震災後にカトリッ

ク大船渡教会(仙台教区)に生まれたフィリピン人共同体「バガサ・イワテ」のリーダーの女性から、被災地の現状と復興に向けた歩みについて聞く機会とする。

4. 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)「第27回全国キリスト者集会」について

1月26日(土)、日本バプテスト連盟仙台基督教会(宮城・仙台市)で『外国人住民基本法』の制定を求める第27回全国キリスト者集会が開催され、事務局も参加した。テーマは、「東北の被災地で『多民族・多文化共生』を祈る」で、外国人被災者の証言、東北の移住女性に関する講演が行われ、プログラムの最後に松浦悟郎司教がメッセージを出した。外国人被災者が十分な支援を受けていない現実が浮き彫りになった。

審 議

1. 2013年度 年間計画の日程について

2013年度の会議および研修会等の日程を決定。

事務局会議 4月5日(金)、5月7日(火)午前、6月28日(金)、9月10日(火)午前

定例委員会 5月7日(火)午後、9月10日(火)午後、11月25日(月)

全国担当者会議 11月25日(月)～26日(火)

2. 「第4回定例委員会」の議題について

本日午後に開催予定の「第4回定例委員会」議題の詳細

■2012年度第4回定例委員会

日 時 2013年2月26日(火) 13:00～16:00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 13人

欠席者 2人

報 告

1. 2013年度 年間計画の日程について

第7回事務局会議 審議を参照

2. 収容所問題の報告について

読売新聞、毎日新聞に報じられたが、12月19日、法務省はオーバーステイなどの外国人をチャーター機で一気に強制送還させる方針を打ち出した。昨年秋頃から、フィリピン人の仮放免がまったく許可されていない。他の支援者間でも同様である。収容所での面会において、さまざまな問題が出ている。面会にかかわる事務を行う職員が外部からの派遣と思われ、事務に慣れていない上、申請を出して面会室に入るまでの待ち時間が長くなり、面会できる回数と人数などを制限される。被収容者と支援者を切り離すような印象も受ける。

3. 「2012年度 長崎教会管区セミナー」について

第7回事務局会議 報告を参照

4. 「2013年度 全国研修会 in 仙台」について

10月16日(水)～18日(金)、カトリック元寺小路教会(仙台教区)の小聖堂にて「全国研修会 in 仙台」の開催が決定した。今後、仙台教区担当者、東京教会管区代表者、事務局で内容やスケジュールを検討する。

5. 「大阪教会管区セミナー」について

10月14日(月)、布池文化センター(愛知・名古屋市)での開催が決定した。セミナーの内容は、大阪教会管区内の教区担当者と相談の上、検討する。

6. 「AOS 船員司牧世界会議」について

AOS 船員司牧全国担当者が欠席のため、報告はなしとする。

7. 難民・移住労働者問題キリスト教連絡会(難キ連)、なんみんフォーラム(FRJ)について

11月－1月に行われた難キ連の運営委員会では、通常通り日本キリスト教協議会(NCC)、移住労働者と連帯する全国ネットワーク(移住連)、牛久面会ネット、FRJなどの各団体からの報告および会計報告があった。東京教区に寄贈された家を移住者・難民を対象とした緊急シェルターとして開設し、1月8日(火)に祝別式が行われた。このシェルター1階に、今まで他の関係団体内にあったFRJの事務所が設置される。

8. 外キ協「第27回 全国キリスト者集会」について

第7回事務局会議 報告を参照

審 議

1. 2013年度 公開講演会、シンポジウム等の企画について

テーマや講師について検討を行い、ハーグ条約に関する講演会と入管収容所に関する講演会を企画することになった。

2. 2013年度「船員の日」、「世界難民移住移動者の日」ポスター作成について

2013年度の「船員の日」ポスターは、AOS 船員司牧コアメンバーと事務局で作成する。詳細は、3月5日(火)に開催される「AOS 船員司牧コア会議」で検討する。「世界難民移住移動者の日」ポスターは、使用するイラストの選別を4月の事務局会議で決定する。

カリタスジャパン

■第6回援助部会会議

日 時 2013年2月22日(金) 11:00－16:00

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 7人

報 告

1. 東日本大震災対応について

- ・各ベース、次年度に向けた準備に取り組んでいる。年度の変わり目に当たり、ベース長の交代などがある。
- ・カリタスアメリカ(CRS)総裁が来日し、被災地と活動を視察した。(1月31日－2月2日)

2. 海外および国内からの東日本大震災募金、ならびに援助金実績が報告された。

審 議

1. カンボジア視察(4月4日－11日) 日程が確定した。

2. 国内援助ガイドライン改訂版を作成し、委員会へ付託。

3. 東日本大震災対応について

- (1)活動の中期見通しをシミュレーションした。次回の仙台教区サポート会議で検討する。
- (2)活動全体の外部評価を2年後に、各ベースの活動の振り返りは毎年行う方向性について、委員会へ付託。

4. 援助部会の持ち方について検討した。

5. 大船渡滞日外国人センター(仙台教区)の介護ヘルパー2級養成講座(第3回)への、同第1回の残金使用を承認した。

6. 一般援助審査 計 10 件（海外）を審査し、5 件を次回委員会へ付託、5 件を却下とした。
7. 国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA) 以下 5 件の支援を決定した。
 - (1) スーダン「ダルフール国内避難民支援 (EA41/12)」30,000 US ドル
 - (2) 中央アフリカ「Seleka 連合反乱緊急人道支援 (EA01/13)」10,000 ユーロ
 - (3) モザンビーク「ガザ州洪水被災者緊急支援 (EA02/13)」10,000 ユーロ
 - (4) ケニア「ソマリア難民キャンプ水と衛生プロジェクト (EA03/13)」10,000 ユーロ
 - (5) スーダン「ヌバ山地紛争避難民緊急支援 (EA04/13)」20,000 ユーロ

次回会議 2013 年 4 月 24 日（水）12:30 -16:30

■第 6 回なんみんフォーラム (FRJ) 運営委員会会議

日 時 2013 年 3 月 14 日（木）10:00-12:00

場 所 なんみんフォーラム事務局（東京・中野区）

出席者 難民移住移動者委員会より 1 人、カリタスジャパンより 1 人

報 告

1. 収容代替措置プロジェクトと三者 (FRJ、日本弁護士連合会、入国管理局) 協議会の進捗よくについて
2. 難民保護法案について
3. 国連難民高等弁務官来日、意見交換会について

審 議

1. 2013 年度上半期活動計画について
 - ・世界難民の日
 - ・FRJ が主催または共催する難民勉強会
 - ・名古屋難民支援室開所記念イベント
2. 運営委員会日程の定例化について

正義と平和協議会

■事務局会議

日 時 2013 年 2 月 27 日（水）10:30-13:00

場 所 日本カトリック会館 会議室 5

出席者 5 人

報 告

1. 事務局主催スタディツアー（沖縄）下見の報告
会長の都合で 6 月 20 日（木）から 23 日（日）に日程を変更する。また、3 月 13 日の事前学習会（第一回）の講師を、知花昌一さんから吉田正司さんに変更する。
2. 各地のスタディツアーの広報について
3. 集会の予定

審 議

1. 2012 年度全国会議を振り返り、来年度開催の時期、場所を検討。

2. 改憲を考えるパンフレットについて、内容、装丁を検討した。タイトルは『平和憲法を守り、活かしていくために』とし、発行は社会司教委員会とする。
3. 奄美大島でのカトリック迫害をテーマにした冊子発行について、具体案を検討。

■事務局会議

日 時 2013年3月15日(金) 9:30-10:30
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 6人

報 告

1. パンフレット『平和憲法を守り、活かしていくために』作成の進捗状況
2. 沖縄スタディツアー事前学習会
テーマ「東村・高江のヘリパッド建設、その背景と現状」
講師 吉田正司さん(一坪反戦地主関東ブロック)
日時 3月13日(水) 18:30-20:45
場所 真生会館(東京・新宿区)
参加者 20人
3. 集会の予定

審 議

1. パンフレット『平和憲法を守り、活かしていくために』の配布方法について検討。パンフレットを活用して7月の参議院選挙まで、学習会や講演会などを各地で開いていくよう働き掛けたい。
2. 来年度の全国会議の開催時期、場所を検討。
3. 『奄美のカトリック迫害と上智大学生神社参拝拒否事件』(仮題)発行について検討。
4. 正義と平和練成会開催について

■定例会議

日 時 2013年3月15日(金) 11:00-14:00
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 11人

報 告

1. パンフレット『平和憲法を守り、活かしていくために』作成の進捗状況や、配布方法。
2. スタディツアー、事前学習会
3. 死刑廃止を求める部会「2月21日に執行された3人の死刑に抗議する声明」
4. 谷 大二会長が2月22日、国際カトリック平和運動のバックス・クリスティ(アメリカ)事務局長あてに、日本国憲法第9条護持の協力要請の書簡を出した。

審 議

1. 改憲反対キャンペーン
パンフレット『平和憲法を守り、活かしていくために』を活用して、7月の参議院選の選挙前に、改憲反対集会、勉強会を行っていくよう、各地の正義と平和協議会、ピース9に働き掛ける。勉強会、講演会開催については事務局で相談に応じる。
2. 全国会議を振り返った。参加者に改憲反対キャンペーンの協力を求め、正義と平和協議会への積極的な参加を促していく。
3. 次回全国会議について
開催日 2014年1月31日(金)-2月2日(日)
会 場 在日本韓国YMCA(東京・千代田区)

■NCC 平和・核問題委員会

日 時 2013年3月14日(木) 13:00-15:00
場 所 日本キリスト教会館 会議室(東京・新宿区)
出席者 カトリックから1人

審 議

1. 学習会開催について
原子力発電所の再稼働と日本国憲法の改定が重要課題との認識のもと、学習会の開催を検討。講師や場所について話し合った。
2. 平和・核問題委員会の新しい推薦委員を検討。

部落差別人権委員会

■春季合宿

日 時 2013年2月23日(土) 12:30-24日(日) 12:00
場 所 1日目 カリタス原町ベース(福島・南相馬市)
2日目 カトリック原町教会(仙台教区)
出席者 28人(7教区)
講 師 金澤弘子(白河みみずく 傾聴ボランティア)
案 内 畠中千秋修道女(カトリック東京ボランティアセンター)
テーマ 福島に聴く～3・11からの学びを広げて～

1日目は講師の金澤弘子さんと一緒に、マイクロバスで飯舘村を經由して南相馬市に向かった。車中、金澤さんから「白河みみずく」の目的や活動概要、ならびに傾聴ボランティアをとおして学んだことについて説明があった。よく準備された説明で分かりやすかった。南相馬市に入り、カリタス原町ベースで平賀徹夫・仙台教区司教と宮城県からの参加者と合流して、カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の畠中千秋修道女とスタッフの案内で被災地を視察した。東日本大震災後初めて福島県を訪れたという人が多かったので、厳しい現実に向き合うのに時間が必要だった。およそ2時間現地を視察し、日没前に原町ベースに到着。午後5時から金澤さんの講演を聴いた。その後、狩浦正義師(名古屋教区司祭、仙台教区に派遣)と原町ベースのスタッフも加わり、参加者全員が気づいたことや考えたことを分かち合った。

2日目、ホテルから雪の中をカトリック原町教会に移動し、午前8時から平賀司教の司式で解放ミサをささげた。9時から原町教会所属の信徒、佐々木孝さん(スペイン思想研究家)と狩浦師の話を聞いた。佐々木さんは、東日本大震災後、いかにマスコミの報道がずさんであったか、東京電力の補償の仕方がいろいろな問題を生じさせていること、責任逃れをする行政の実態など、現代社会・国家の問題について厳しく指摘した。狩浦師は、はじめに「私たちはどこに立てばいいのか」と問いかけながら信仰の在り方、教会の在り方について示唆に富む話をした。

■定例委員会

日 時 2013年3月6日(水) 11:00-16:00
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 14人
欠席者 1人

報 告

1. 狭山事件の再審を求める取り組みについて

(1) 第 12 回三者協議が 2013 年 1 月 30 日(水)に開催された。次回の三者協議は 5 月に行われる。

(2) 「拡大全国狭山活動者会議・狭山住民の会全国交流会」が 2013 年 2 月 1 日(金)に憲政記念館(東京・千代田区)で開催され、全国から 120 人が参加した。

(3) 「狭山事件の再審を求める市民集会」が 2013 年 5 月 23 日(木)に、日比谷公園野外音楽堂(東京・千代田区)で開催される。集会の規模は 4,000 人。当日午前 11 時から「キリスト者前段集会」を同音楽堂で行う。キリスト者前段集会の呼びかけ団体は、日本基督教団部落解放センター、部落問題に取り組むキリスト教連帯会議、日本キリスト教協議会、部落解放キリスト者協議会、日本カトリック部落差別人権委員会。『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議が協力する。

2. 春季合宿について

福島県南相馬市で 2 月 23 日(土)ー24 日(日)に開催した春季合宿について、参加した委員から感想と報告があった。

3. 「なぜ教会は社会問題にかかわるのか Q&A」記念シンポジウムについて

4. ハンセン病市民学会について

ハンセン病市民学会「第 9 回総会・交流集会」が、2013 年 5 月 11 日(土)ー12 日(日)に熊本市で開催される。全体統一テーマは「いま、『いのち』の意味を問う～ハンセン病回復者をとりまく現状と将来へのメッセージ」。1 日目は総会と交流集会を熊本県立劇場で、2 日目は分科会と特別企画・部会・フィールドワークを国立療養所菊池恵楓園で開催する。

5. 大阪教会管区部落差別人権活動センター

(1) 部落問題に取り組むキリスト教連帯会議(部キ連)・狭山現地学習会(第 23 回加盟教団・教派行政責任者部落差別問題研修会と合同開催)について

2013 年 3 月 11 日(月)ー12 日(火)に埼玉県狭山市で開催する。

(2) 部キ連創立 30 周年について

今年、部キ連が創立 30 周年を迎える。「部キ連 30 年誌」と「第 30 回総会と記念講演会」を計画している。

(3) リバティおおさか(大阪人権博物館)について

6. 「春うらら 講演&コンサート」の開催について

日 時 2013 年 4 月 6 日(土) 13:30ー18:00

場 所 国立療養所多磨全生園コミュニティセンター(東京・東村山市)

共 催 多磨全生園入所者自治会、特定非営利活動法人 IDEA ジャパン、ハンセン病問題を考える有志の会

後 援 カトリック横浜教区正義と平和協議会、カトリック東京教区正義と平和委員会、カトリックさいたま教区、日本カトリック部落差別人権委員会

第一部 講演 「世界のハンセン病のいま～歴史保存と人権の確立をめざして」

講師 アンウェイ・スキンスネス・ロー (IDEA 国際コーディネーター)

第二部 ピアノ弾き語りコンサート「かかわらなければ」 沢 知恵(さわ ともえ)

第三部 花見「自由を奪われた入所者が 80 年かけて育てた桜を愛でながら、交流しましょう。」

審 議

1. 夏季合宿について

テーマ 武州鼻緒騒動～解放を求めるたたかい～

日 時 2013 年 7 月 27 日(土)ー28 日(日)

会 場 カトリック川越研修センター「ミカエルの家」(埼玉・川越市)

講 師 藤田源市(武州鼻緒騒動研究会、部落解放同盟埼玉県連合会)

2. シンポジウム「福音と差別」について
 - テーマ 狭山 50 年と国家権力
 - 日時 2013 年 9 月 21 日(土)13:30-16:30
 - 会場 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院(東京・千代田区)
3. 全国会議について
 - 日時 2013 年 11 月 3 日(日)-4 日(月)
 - 会場 1 日目 ザ・パレスサイドホテル(京都市)
 - 2 日目 京都カトリック会館(京都市)
 - 宿泊 ザ・パレスサイドホテル
4. 2014 年春季合宿について

開催に向けて準備する。

 - テーマ 狭山 50 年 石川一雄さんのあゆみ(案)
 - 日時 2014 年 3 月 15 日(土)-16 日(日)(予定)
 - 会場 徳島県

外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)

■事務局会議

日時 2013 年 3 月 25 日(月)18:00-20:30
 場所 日本キリスト教会館(東京・新宿区)
 出席者 カトリックから 1 人

1. 九州・山口外キ連からの全国キャンペーン企画の報告
 - ・外キ連祈祷会を毎月第三木曜日午後 7 時より、在日大韓基督教会小倉教会で行うことになった。
 - ・「外国人住民基本法」制定キャラバンを 6 月 30 日(日)に福岡地区で実施する。
 - ・NO MORE 倭乱 in 釜山・晋州集会を行う。3 月 24 日(日)-27 日(水)関釜フェリーで往復する予定。
2. 外国人被災者プロジェクトのための募金について

外国人被災者との面談によって、裁判問題も出てきているので、その費用についての検討も必要になった。各教派・団体へ献金の呼びかけを送付する。
3. 6 月全国運営委員会について検討した。
 - ・日程 6 月 27 日(木)14:00-28 日(金)13:00
 - ・会議の合間に入管法改定に伴う諸問題について公開講座を実施する。講師未定。
4. 第 5 回青年の旅の企画(8 月 1 日(木)-7 日(水))の詳細を検討した。事前学習を以下の要領で行う。
 - ・開催日 5 月 11 日(土)
 - ・場所 カラバオの会(神奈川・横浜市)
 - ・講師 渡辺英俊牧師(日本基督教団なか伝道所)
 - ・テーマ 外国人労働相談の取り組みから学ぶ
5. その他

各教派・団体の分担金の依頼書を送付した。

中央協議会事務局

■総務

5月会議予定

| | | |
|---------------|---------------------------|-----------|
| 8日(水) | 社会司教委員会冊子編集会議 | 日本カトリック会館 |
| 8日(水) | 社会司教委員会秘書合同会議 | 〃 |
| 8日(水) | 第1回諸宗教部門会議 | 〃 |
| 8日(水) - 9日(木) | WYD リオデジャネイロ大会同伴者会議 | 〃 |
| 9日(木) | 常任司教委員会 | 〃 |
| 14日(火) | カリタスジャパン啓発部会 | 〃 |
| 14日(火) | 子どもと女性の権利擁護のためのデスク | 〃 |
| 21日(火) | カリタスジャパン委員会 | 〃 |
| 21日(火) | 正義と平和協議会定例会議 | 〃 |
| 22日(水) | 日本カトリック幼稚園連盟常任委員会 | 〃 |
| 23日(木) | 日本カトリック小中高連盟代表委員会・定例連盟委員会 | 〃 |
| 23日(木) | 日本カトリック幼稚園連盟定例委員会 | 〃 |
| 23日(木) | 日本カトリック学校連合会常任理事会 | 〃 |
| 23日(木) | 日本カトリック学校連合会定例理事会 | 〃 |

<会報 2013年5月号 公文書>

「再び3月11日を迎えるにあたって」会長談話 英語版

On the Occasion of the Second Anniversary of the Great Earthquake on March 11

Nearly two years have passed since the Great East Japan Earthquake. Even now, however, it can hardly be said that peace and hope have been restored to people in the afflicted areas, or that reconstruction is in sight. Therefore, as president of the Catholic Bishops' Conference of Japan, I would like to inform all of you in the Catholic Church in Japan about the current situation as exactly as possible so that we might think together about what we can do.

For afflicted persons, the primary cause for their suffering, agony, distress, and anxiety is, simply put, that there is as yet no prospect of reconstruction. A huge obstacle is that the solutions to the crucial issues such as securing safe housing, eliminating radioactive contamination, redeveloping industries and generating employment are hardly foreseeable.

With regard to housing, people first lived in shelters, and now in temporary housing. Although they are expected to move to public reconstruction housing in the future, nobody seems to know when it will happen. Therefore, there is a tendency that those who have enough economic potential, physical strength and vitality leave the temporary housing and "vulnerable" ones are left behind. It is also feared that those remaining suffer new emotional distress so that

the number of those who wish to commit suicide increases due to anxiety about the future.

In Fukushima Prefecture where people are suffering from radioactive contamination, it is said that they will not be able to return to their homes with ease for at least five more years. In reality, however, it seems likely to be postponed to a later date. The number of those who have evacuated from Fukushima is expected to reach 160,000. How can they go back to their hometowns if the contamination will not be eliminated? Moreover, as long as nuclear plants exist there remains a risk that their beloved hometowns will be contaminated again by radiation, since technology developed by humanity is not perfect.

With regard to job opportunities or employment, the number of young people who leave Fukushima is increasing because there are not enough secure jobs to sustain their future. One reason behind this is difficulties in redeveloping primary industries located mostly in the coastal regions. Why is it so difficult? How can we redevelop them? These are the issues we have to tackle in the future.

The Catholic Church is making every effort to accompany people sincerely and to build close relationships among people in the regions.

I would like to express my sincere appreciation and respect to those who have been working in various ways until now, for example, the Sisters' Relay conducted even now in the forms of aid activities in the afflicted areas and prayers in convents nationwide, the volunteers' bases as the signs of all the Japanese ecclesiastical provinces' concern for those areas, and staff members and volunteers sent through the nationwide network of the Church. I hope the efforts within the Church contribute to enhancing communication in the regions and become helpful in accompanying people living there.

Volunteers' bases serve as the centers* for the Church to closely support the afflicted areas. As was the case during the shift from shelters to temporary housing, there is concern that when people move from temporary housing to public restoration housing, those who have been acquainted and become friends with each other will be separated again. The support to promote friendship among people in the region will be all the more necessary because it is truly important in reconstruction to alleviate new pain caused by the interruption of friendship. I sincerely wish that the Church's volunteer bases continue to be used for such support.

Without accompanying others, we cannot find out their wound or pain. Without listening to them, we cannot hear their voices. Without taking a humble and sincere stance, we can neither accompany them in a true sense nor contribute to building communities. Accompanying each one of the afflicted ones is one of our aid activities. Meanwhile, we learn a lot from them in return.

Let us continue to provide both material and spiritual aid, and pray with people in Japan and the rest of the world who feel sympathy for the afflicted persons. Prayers have a power. Prayers are the sign of never forgetting.

Merciful God

You are always close to us, and share our joy and sorrows.

Give your help and encouragement to those who are suffering from the aftereffects of the latest great earthquake.

We will make sacrifices and keep on praying for them, too.

May all the afflicted ones be able to live with ease as soon as possible.

May all who died in this disaster rest peacefully with You.

Through Jesus Christ our Lord. Amen.

May our Mother, pray for us. Amen.

February 22, 2013

President of the Catholic Bishops' Conference of Japan
Leo Jun IKENAGA, S.J., Archbishop of Osaka

Note

*Our aid activities are carried out by the Sendai Diocese Support Center and others including the following 10 bases.

Miyako Base
Otsuchi Base
Kamaishi Base
Kamaishi Support Center for Persons with Disabilities
Ofunato Base
Yonekawa Base
Ishinomaki Base
Haramachi Base
Iwaki Support Station Mominoki (Fir Tree)
Fukushima Desk

「2013 年世界召命祈願の日」 教皇メッセージ

第 50 回世界召命祈願の日教皇メッセージ
(復活節第 4 主日 2013 年 4 月 21 日)
「召命、それは信仰に根ざした希望のしるし」

親愛なる兄弟姉妹の皆様

復活節第 4 主日、2013 年 4 月 21 日に行われる第 50 回世界召命祈願の日にあたり、わたしは「召命、それは信仰に根ざした希望のしるし」というテーマについて深く考えるよう皆様をお願いしたいと思います。幸運なことに、今年は第二バチカン公会議開幕 50 周年を記念する信仰年にあたります。公会議の会期中に、神のしもべ教皇パウロ六世は、父なる神にご自分の教会のための働き手を送り続けてくださるよう（マタイ 9・38 参照）、世界中で祈り求める日を制定しました。その時、教皇が述べたように、「十分な数の司祭を確保するという問題は、すべての信者にすぐさま影響を与えます。それは、彼らがキリスト教社会の宗教的な未来をそのことに託しているためだけではありません。この問題は、小教区や教区の各共同体の信仰と愛の力を正確かつ如実に表す指標であると同時に、キリスト者の家庭の道徳的な健全性のしるしだからです。司祭職と奉獻生活への召命が多く見られるところではどこでも、人々は福音を豊かに生きています」（教皇パウロ六世「ラジオメッセージ」、1964 年 4 月 11 日）。

それから数十年間、世界中のさまざまなキリスト教共同体が、毎年、復活節第 4 主日に集い、聖なる召命のたまものを神に願い求めるためにともに祈ってきました。そして、神の呼びかけにこたえることが緊急に必要とされていることについて考えるよう、すべての人に再度、提案してきました。年に一度のこの大切な日は、司祭職と奉獻生活への召命の重要性を、信者の霊性と祈りと司牧活動のさらに中心に位置づ

けようとする強い意志を確かにはぐくんできたのです。

希望とは、何かよいことを未来に期待することであると同時に、不満や失敗がしばしば伴う現在の状況を支えるものでなくてはなりません。わたしたちの希望は何に根ざしているのでしょうか。旧約聖書で語られるイスラエルの民の歴史を見ると、とりわけ捕囚の期間のような極めて困難なときに、一つの要素が つねに表れているのが分かります。預言者たちの記述の中にとくに見られるその要素とは、神が族長たちと結んだ契約を思い起こすことです。わたしたちはその記憶によって、アブラハムの模範的な態度に倣うよう促されます。聖パウロが記すように、アブラハムは「希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、『あなたの子孫はこのようになる』と言われていたとおりに、多くの民の父となりました」（ローマ 4・18）。救いの歴史全体には、慰めに満ち、わたしたちの目を開かせる真理が表れています。その真理とは、神はご自分が結んだ契約に忠実であることです。洪水（創世記 8・21-22 参照）からエジプト脱出、荒野での旅（申命記 9・7 参照）に至るまで、人間が不義や罪によって契約を破るたびに、神はそれを結び直しておられます。この忠実さをもって、神は、わたしたちを救うために死んで復活した御子の血によって、人間と新しい永遠の契約を結ばれたのです。

どんなときも、とくにもっとも困難なとき、主の忠実さは、つねに救いの歴史の真の原動力として人間の心呼び覚まし、いつの日か「約束の地」にたどり着けるといふ希望を確かなものにします。神はわたしたちを決して見捨てることなく、ご自分のことばに忠実です。そこに、わたしたちはあらゆる希望の確かな礎を見いだします。ですから、わたしたちは、よいときも悪いときも、どんな状況にあっても確かな希望をはぐくみ、詩編作者とともに祈ることができます。「わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。神にのみ、わたしは希望をおいている」（詩編 62・6）。したがって、希望を抱くことは、契約という約束を守る忠実な神を信頼することと同じです。そして、信仰と希望は密接に結びついています。「実際、『希望』は、聖書における信仰にとって中心的な意味をもつことばです。いくつかの箇所では『信仰』ということばと『希望』ということばを置き換えることができるように思われるほどです。それゆえヘブライ人への手紙は、『信頼しきる』（10・22）ことと『公に言い表した希望を揺るがぬよう』（10・23）にすることとを密接に結びつけます。ペトロの手紙一もキリスト者に勧めます。あなたがたの抱いている希望についての『ロゴス』——すなわち意味と理由——をいつでも弁明できるように準備していなさいと（3・15 参照）。ここでも『希望』は『信仰』と同じ意味で用いられています」（教皇ベネディクト十六世回勅『希望による救い』2）。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。わたしたちが揺るぎない希望をもって信じる神の忠実さとは、いったい何なのでしょう。それは神の愛です。御父は聖霊によって、ご自分の愛をわたしたちの心の奥に注ぎ込んでおられます（ローマ 5・5 参照）。イエス・キリストにおいて完全に表されるこの愛は、わたしたちの存在に働きかけるとともに、各人が自分の人生で何をしたいか、人生を完全に生き抜くために何をささげる用意があるかという点についてこたえるよう求めています。神の愛は、ときには想像もできない道をたどりませんが、見つけられることを望む人のもとに必ず届きます。この確信のもとに、希望が培われるのです。「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています」（一ヨハネ 4・16）。この深く強い愛は、心中深く浸透し、わたしたちに勇気を与え、人生の旅路と未来に対する希望をもたらします。その愛によって、わたしたちは自らを信じ、歴史と隣人を信頼できるようになるのです。わたしは皆様に、とりわけ若い皆様にもう一度、申し上げたいと思います。「この愛がなかったら、皆様の人生はどうなっていたでしょうか。天地創造からご自分の救いの計画を完成させる世の終わりに至るまで、神は人間を見守っておられます。復活した主のうちに、わたしたちは自らの希望を確かなものとするのです」（サンマリノ・モンテフェルトロ教区の若者へのあいさつ、2011年6月19日）。

復活したイエスは、まさに地上における生涯でされたように、今日も、わたしたちが生活する街を歩き、わたしたちがあらゆる願望や要求に駆られて自分の行いに夢中になるさまを見ておられます。イエスは、日常のただ中でわたしたちに語りかけ続けます。そして、ご自分とともに人生を生きるようわたしたちに呼びかけています。なぜなら、イエスだけがわたしたちの希望への渇きをいやすことができるからです。今日、イエスは教会という弟子たちの共同体の中に生き、ご自分に従うよう今も人々に呼びかけています。その呼びかけは、今すぐにも届くかもしれません。現代においても、イエスは「わたしに従いなさい」

(マルコ 10・21) と語り続けています。イエスの招きを受け入れることは、もはや自らの道を自分で選ばないことを意味します。イエスに従うとは、自らの意志をイエスの意志の中に沈め、真にイエスを優先し、わたしたちの家庭、仕事、趣味といった生活のあらゆる領域や、わたしたち自身の中の最高の場所をイエスのものとするのです。それは、わたしたちのいのちそのものをイエスに引き渡し、イエスと深く一致して生き、イエスを通して聖霊のうちに御父との交わりへと、また、それゆえに兄弟姉妹との交わりへと入ることを意味します。このイエスとのいのちの交わりという特別な「場」において、わたしたちは希望を抱き、わたしたちのいのちは満たされ、自由になるのです。

司祭職と奉獻生活への召命は、キリストと個人的に出会い、キリストと誠実で信頼に基づく対話を行い、キリストの思いと一つになることによって生まれます。したがって、信仰体験の中で成長することが必要です。その体験は、イエスと深く結びつくこととして、また、自分の内面の奥深くで聞こえるイエスの声に心の耳を傾けることとして理解されます。こうした過程を通して、わたしたちは神の呼びかけに喜んでこたえられるようになりますが、それはキリスト教共同体の中で可能となります。そこでは、信仰がしっかりと実践され、福音に従って豊かなあかしが行われています。また、神の国のために自らを完全なささげものとするよう人々を導く宣教への熱い思いが存在しています。このささげものは、諸秘跡、とりわけ感謝の祭儀により頼み、敬虔な祈りの生活を送ることによってはぐくまれます。祈りの生活は「まず個人的なものとならなければなりません。わたしの内面と、神との、それも生きた神との出会いとならなければなりません。同時に、教会と聖人の優れた祈り、また典礼の祈りがこの祈りをつねに導き、照らさなければなりません。こうした祈りの中で、主は正しく祈ることを教え続けてくださるからです」(教皇ベネディクト十六世回勅『希望による救い』34)。

深く絶え間ない祈りは、キリスト教共同体の信仰に成長をもたらします。それは、神は決してご自分の民を見捨てないという確信、また神は司祭職と奉獻生活という特別の召命を呼び起こして世の希望のしるしとすることによってご自分の民を支えてくださるという確信をたえず新たにする中で行われます。実に、司祭と修道者は、その確かな希望のために働きながら、福音と教会への愛の奉仕のうちに神の民のために無条件で自らをささげるよう求められています。その希望は、神に開かれることによるのみ得られるのです。このように、司祭と修道者は、信仰と使徒的熱意をあかしすることによって、より親しくご自分に従うよう呼びかけているキリストに惜しみなく即座にこたえたいという強い願いを、とりわけ若い世代に伝えることができます。イエスに従う者の一人が、司祭職や奉獻生活に自らをささげる召命を受け入れるたびに、わたしたちは、キリスト教共同体のもっとも成熟した実りの一つを目の当たりにします。そして、特別の信頼と希望をもって教会の未来と福音宣教への歩みを見つめるよう促されるのです。そのためには、福音をのべ伝え、ミサをささげ、ゆるしの秘跡を授けるための新しい働き手がつねに必要です。「旅の仲間」として若者に寄り添うすべを知っているひたむきな司祭。若者が人生のつらく険しくなりがちな道において、道であり、真理であり、いのちであるキリスト(ヨハネ 14・6 参照)に気づくのを助ける司祭。さらには、神とキリスト教共同体と兄弟姉妹に仕えることがどんなに素晴らしいことかを、福音的な勇気をもって若者に伝える司祭が必要なのです。人生に完全な意味を与える心からの献身の豊かさを明らかにする司祭が欠けることがありますように。その献身は、わたしたちを先に愛してくださった神(一ヨハネ 4・19 参照)への信仰に根ざしているからです。

また、あまりにも多くの表面的でその場限りの選択肢を与えられている若者が、本当に価値あるもの、崇高な目的、根本的な選択、そしてイエスのように他者に奉仕することを求める心をはぐくむことができるよう望みます。親愛なる若者の皆様。イエスに従い、愛と惜しみない献身という険しい道を勇気をもって歩むことを恐れなください。その道において、皆様は奉仕することに喜びを感じ、この世が与えることのできない喜びをあかしし、尽きることのない永遠の愛の生きた炎となり、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できる」(一ペトロ 3・15) すべを学ぶようになるのです。

バチカンにて

2012年10月6日

教皇ベネディクト十六世

「新教皇フランシスコの選出にあたって」会長談話

2013年3月14日

新教皇フランシスコの選出にあたって

3月13日、全世界のカトリック教会を導くために、アルゼンチン出身のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿が新しく第266代教皇に選出されました。

新教皇はフランシスコと名乗られます。

カトリック教会は、第2バチカン公会議（1962年～1965年）開幕から50年を機に、昨年10月より1年間を「信仰年」と定めた前教皇ベネディクト十六世の意向に従い、公会議の精神に生きるように努めています。同公会議は、教会の現代化、世界の苦しむ人々との連帯、他宗教やキリスト教各派への敬意と対話を打ち出しました。また、「自分の懷に罪人を抱いている教会は、聖であると同時につねに清められるべきであり、悔い改めと刷新との努力を絶えず続ける」（教会憲章8条）と宣言して、教会は常に回心する必要があると表明しました。教皇フランシスコと共に、わたしたちはまず教会の刷新のために努力しなければならないと思います。

また、カトリック教会は、現代世界のさまざまな問題を解決するために関わっていかなくてはならないと自覚しています。たとえば、さらに深刻さを増した経済格差の是正。貧しい人、子ども、難民、女性の権利の擁護。受胎から自然死に至るまでのいのちを守ること。各地の戦争や紛争の中で、正義と人権、平和を実現するために献身すること。信教の自由の保証と宗教間の対話。宗教を理由にした暴力の根絶。原発などのエネルギー問題の解決と環境保護への努力。医療を受けられない人々への対応・保健活動。そして、移住者への奉仕などです。わたしたちカトリック教会は、国際レベルでも、国内レベルでも、すべての国、国連、国際機関、そしてすべての善意の人々との協力のうちに、これらの課題と取り組んでいこうとしています。教皇フランシスコは全教会の賢明かつ力強い牧者としてわたしたちの働きを導き支え助けてくださることと確信します。

前教皇ベネディクト十六世の在任中に皆さまからいただきましたご厚意と、辞任を表明して以来、新教皇の選出に至るまで、教会に大きな関心を寄せてくださったことに感謝いたしております。そして、新教皇とともに始めるカトリック教会の新たな歩みに、これまでと変わることのないお力添えをいただきますよう心からお願いいたします。

神の祝福が皆様一人ひとりに豊かにありますようにお祈り申し上げます。

日本カトリック司教協議会会長
大阪大司教 レオ 池長 潤

新教皇フランシスコ

1936年12月17日 アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ(76歳)。

1958年イエズス会入会。1969年司祭叙階。1992年ブエノスアイレス補佐司教。

1998年ブエノスアイレス大司教。2001年ヨハネ・パウロ二世より枢機卿に叙任。

「新教皇フランシスコの選出を祝って」会長談話

2013年3月14日

新教皇フランシスコの選出を祝って

カトリック信者の皆様

3月13日、アルゼンチン出身のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿が新しく第266代教皇に選出されました。教皇はフランシスコと名乗られます。

新教皇は、これまでの牧者としての豊かな経験に基き、福音宣教への強い熱意を持って、これからの教会を指導して下さるだろうとわたしたちは期待しております。神がこの新教皇をつねに力づけ、必要なすべての助けを与えて下さるよう祈りたいと思います。

さて、カトリック教会は、第2バチカン公会議（1962年～1965年）開幕から50年を機に、昨年10月より1年間を「信仰年」と定めた前教皇ベネディクト十六世の意向に従い、公会議の精神に生きるように努めています。同公会議は、教会の現代化、世界の苦しむ人々との連帯、他宗教やキリスト教各派への敬意と対話を打ち出しました。また、「自分の懷に罪人を抱いている教会は、聖であると同時につねに清められるべきであり、悔い改めと刷新との努力を絶えず続ける」（教会憲章8条）と宣言して、教会は常に回心する必要があると表明しました。教皇フランシスコと共に、わたしたちはまず教会の刷新のために努力しなければならないと思います。

そして、昨年開かれた第13回世界代表司教会議（シノドス）で発表されたメッセージの中では、「新しい福音宣教」へと教会が歩み続けるために、わたしたちは至るところで福音を告げ知らせ、信仰を活性化させる必要があると述べられています（最終メッセージ2参照）。また、福音を宣べ伝えるために「必要なのは、イエスが人々に近づき、人々を招いたやり方を再発見し、現代の状況の中でそれを実践すること」（最終メッセージ4）が求められています。

新教皇とともに、カトリック教会は、現代世界のさまざまな問題を解決するために関わっていかなくてはならないと自覚しています。たとえば、さらに深刻さを増した経済格差の是正。貧しい人、子ども、難民、女性の権利の擁護。受胎から自然死に至るまでのいのちを守ること。各地の戦争や紛争の中で、正義と人権、平和を実現するために献身すること。信教の自由の保証と宗教間の対話。宗教を理由にした暴力の根絶。原発などのエネルギー問題の解決と環境保護への努力。医療を受けられない人々への対応・保健活動。そして、移住者への奉仕などです。カトリック教会は、国際レベルでも、国内レベルでも、すべての国、国連、国際機関、そしてすべての善意の人々との協力のうちに、これらの課題と取り組んでいこうとしています。

わたしたちも新教皇のために祈るとともに、神の国の建設のために力を尽くしていきたいと思います。そして、新教皇のために、聖霊の導きを祈り、教会の母である聖母マリアに取り次ぎを願いましょう。

日本カトリック司教協議会会長
大阪大司教 レオ 池長 潤

新教皇フランシスコ

1936年12月17日 アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ(76歳)。

1958年イエズス会入会。1969年司祭叙階。1992年ブエノスアイレス補佐司教。

1998年ブエノスアイレス大司教。2001年ヨハネ・パウロ二世より枢機卿に叙任。

「新教皇フランシスコの選出にあたって」会長談話 英語版

On The Election of New Pope Francis

On March 13 2013, Cardinal Jorge Mario Bergoglio of Argentina was elected as the 266th Pope to lead the Catholic Church in the world.

He chose the pontifical name Francis.

On the occasion of the 50th anniversary of the opening of the Second Vatican Council (1962–1965), the Catholic Church has been striving to live in the spirit of the Council following the intention of Pope Emeritus Benedict XVI who declared that the Year of Faith would be celebrated for one year starting last October. The Council took up the themes of the modernization of the Church, solidarity with suffering people in the world, and respect for and dialogue with other religions and other Christian denominations. Moreover, it declared that the Church must always be converted and renewed, stating, “the Church, embracing in its bosom sinners, at the same time holy and always in need of being purified, always follows the way of penance and renewal” and by stating (Lumen gentium 8). We must make every effort first of all to renew the Church with Pope Francis.

We acknowledge that the Catholic Church must deal with various issues in the modern world: For example, rectifying growing economic disparities; protecting the human rights of the poor, children, refugees and women; respecting life from conception to natural death; being committed to the realization of justice, peace, and the protection of human rights amid wars or conflicts in various regions; securing the freedom of religions and interreligious dialogue; abolishing religious violence; solving issues of energy such as nuclear power generation and contributing to the protection of the environment; responding to the health needs of those who cannot afford medical care; and serving migrants. We, as the Catholic Church, will address these issues at home and abroad in cooperation with the United Nations, all countries, international organizations and people of good will. I am confident that Pope Francis will guide, support and help our activities as a wise and powerful pastor of the whole Church.

We would like to express our sincere appreciation for your kind consideration while Pope Emeritus Benedict XVI was in office, and for your close attention to the Church after his announcement of resignation and during the election of a new pope. We sincerely hope for your continued support.

I pray that God will bless each of you abundantly.

March 14, 2013

President of the Catholic Bishops' Conference of Japan
Leo Jun Ikenaga, S.J., Archbishop of Osaka

Pope Francis

December 17, 1936 Born in Buenos Aires, Argentina (76 years old now)

1958 Entered the Society of Jesus

1969 Ordained Priest

1992 Appointed Auxiliary Bishop of Buenos Aires

1998
2001

Appointed Archbishop of Buenos Aires
Proclaimed Cardinal by Blessed Pope John Paul II

「新教皇フランシスコの選出を祝って」会長談話 英語版

Celebrating the Election of New Pope Francis

To all Catholics

On March 13 2013, Cardinal Jorge Mario Bergoglio of Argentina was elected as the 266th Pope to lead the Catholic Church in the world. He chose the pontifical name Francis.

We expect that the new Pope will guide the Church based on his abundant experience as a pastor and with his great zeal for evangelization. I pray that God will always encourage Pope Francis and bestow on him everything he needs.

On the occasion of the 50th anniversary of the opening of the Second Vatican Council (1962–1965), the Catholic Church has been striving to live in the spirit of the Council following the intention of Pope Emeritus Benedict XVI who declared that the Year of Faith would be celebrated for one year starting last October. The Council took up the themes of the modernization of the Church, solidarity with suffering people in the world, and respect for and dialogue with other religions and other Christian denominations. Moreover, it declared that the Church must always be converted and renewed, stating, “the Church, embracing in its bosom sinners, at the same time holy and always in need of being purified, always follows the way of penance and renewal” and by stating (Lumen gentium 8). We must make every effort first of all to renew the Church with Pope Francis.

In the message announced during the 13th Ordinary General Assembly of the Synod of Bishops last year, it is stated that we must proclaim the Gospel everywhere and revive our faith so that the Church will continue to advance toward the “New Evangelization”(cf.2). In order to proclaim the Gospel, “we need to rediscover the ways in which Jesus approached persons and called them, in order to put these approaches into practice in today’s circumstances”(4).

We acknowledge that the Catholic Church must deal with various issues in the modern world with the new Pope: For example, rectifying growing economic disparities; protecting the human rights of the poor, children, refugees and women; respecting life from conception to natural death; being committed to the realization of justice, peace, and the protection of human rights amid wars or conflicts in various regions; securing the freedom of religions and interreligious dialogue; abolishing religious violence; solving issues of energy such as nuclear power generation and contributing to the protection of the environment; responding to the health needs of those who cannot afford medical care; and serving migrants. We, as the Catholic Church, will address these issues at home and abroad in cooperation with the United Nations, all countries, international organizations and people of good will.

We would like to be fully committed to establishing the Kingdom of God in prayers for the new Pope. Let us pray that the Holy Spirit will guide Pope Francis and ask the intercession of Mary, Mother of the Church.

March 14, 2013

President of the Catholic Bishops' Conference of Japan
Leo Jun Ikenaga, S.J., Archbishop of Osaka

Pope Francis

December 17, 1936 Born in Buenos Aires, Argentina (76 years old now)

1958 Entered the Society of Jesus

1969 Ordained Priest

1992 Appointed Auxiliary Bishop of Buenos Aires

1998 Appointed Archbishop of Buenos Aires

2001 Proclaimed Cardinal by Blessed Pope John Paul II

新刊書籍案内

※ 「今日のカトリック神学—展望・原理・基準」 教皇庁教理省 国際神学委員会

※ 「世界代表司教会議 第13回通常総会 報告」 カトリック中央協議会

カトリック中央協議会 「会報」 2013年5月号 (通巻502号)

発行日 2013年4月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457